第一話　波に乗る男

「明日午後から有給取って、市役所に転出届に行ってくる」
三月半ばの昼休み、不意に主任が隣の席の僕に話しかけてきた。
四月から主任が異動になる。同じ県内ではあるが、奥さんと小学生の娘さんを残して単身赴任になるらしい。

「今の時期に窓口行くのはやめといた方がいいですよ。下手すると、一時間以上待たされますよ」
正直、猫以外のどんな手もお借りしたいこの多忙な時期に、絶対的戦力である主任に有給なんて取ってほしくない。他のメンバーを代表して、僕はなるべくそう悟られないよう主任に告げた。

「でも、窓口行かないと。四年前は俺、一時間くらい待ったよ」
「まあ、転入は窓口行かないとできないんですけど、転出は今の時代、市役所行かなくてもスマホからできますよ」
昨年スマホでの転出を経験済みの僕は得意気に答えた。

「そうなんだ。知らなかったな。実は最近娘にも言われるんだ。海の波もいいけど、ちゃんと時代の波にも乗らないとって」
「娘さん小学生ですよね？上手いこと言いますね」
「まあ、妻が二人いるようなもんだよな」
「なんか大変そうですね。じゃあ今から教えますよ。ちなみに主任、マイナンバーカード持ってますよね？」

これで二人目の奥様も、少しでも主任を見直してくれるといい。
そう願いつつ、僕はスマホで「宮崎市　転出」と検索した。